

けいざい一話 ひと 組織 思想

現地幹部、学生から「発掘」

中国の「できる」学生を発掘し、日本企業の現地法人に送り込むことを目的として昨年7月に設立された経営塾「グローバル・マネジメント・カレッジ」(GMC)が注目を集めています。急拡大する中国市場でのし上がるのに必要な優秀な幹部候補生を、今や1万人に達する応募者の中から日本人が選り出し、育成するGMCのシステムに期待は高まる一方です。

中国で日本人主宰の経営塾

(上海=山口博敏)



中国の大学生に経営者としての心得を説く杉山定久さん(右から2番目)中国・武漢市で、山口博敏

「できる」人材厳選

「何度も言わせろな」。中国内陸の湖北省武漢市。会議室に並ぶスーツ姿の中国大学生16人を前に、日本語の怒声が響いた。「相変わらず話が長くて要領を得ていない。変化のない人は周りが認めるリーダーになれない」通訳が淡々と中国語に言い換える。将来、どんな仕事をしたいのか、という問いかけに、延

々と5分近くしゃべり続けた学生への注意だった。「場」をわきまえた適切な受け答えを考へる」とのメッセージだ。

幹部になりたい学生は集まれー。16人の学生は、インターネットや口コミを通じての呼びかけに応じて集まった武漢大などの4年生。約3千人の応募者の中から、書類選考や3回の面接を経て

選ばれた。

学生を指導するのはGMCの主宰者の杉山定久氏(63)。静岡県三島市の建設会社「南富士産業」の社長でもある杉山氏は、奨学金の支給などを通じて武漢大と縁が深く、同大に経営学の講座を持つ客員教授でもある。「中国には優秀な若い人材がいるのに日本企業との接点が少ない」と考へ、優秀な大学生を鍛えて日本企業に送り込むべくGMCを創設した。

講師は南富士産業の社長。大学のそばに事務所を進出した。進出当時、このメーカーは、顧客の大手企業が続々と中国に進出するのに伴い、杭州に進出した。進出当時

在学中から副社長

上海近郊の浙江省杭州市。GMCの1期生で、今夏に武漢大商学部を卒業した張凱さん(22)は日本の材料メーカーの現地法人で、在学中だった05年12月から副社長を務めている。非常勤の社長に代わって1200人の従業員を束ねる責任者だ。

副社長となった張さんは一人ひとりの従業員と話し合いを重ね、工場内

をキレイにする「改革」から始めた。ムダなコストの削減にも取り組み、就任1年目で黒字を達成できる見通しだ。中国に進出した日本企業は、現地の事情に通じた優秀な工場運営者や営業幹部を必要とする。しかし、大部分の日本企業は現地で中国人のホワイトカラーを採用した経験が少ない。学歴や転職前がたく、予定より多く採用した」と話す。

GMCの活動拠点と学生の主要な所属大学

西安(2期~)	北京(4期~)	武漢(1期~)	広州(3期~)
・西北大学・西安交通大学	・北京大学・清華大学	・武漢大学・華中科技大学	・中山大学・華南理工大学
4期 2500人 5期 2500人	4期 800人 5期 1000人	4期 3000人 5期 5000人	4期 500人 5期 1500人
応募者	応募者	応募者	応募者
16人	15人	16人	11人
受講者	受講者	受講者	受講者
3人	5人	6人	2人
修了者	修了者	修了者	修了者
-	-	-	-

視点 逸材の実力に期待

見どころのある人材を厳選し、鍛え上げるのがGMC。「勝ち抜きたい」。そこで学ぶ若者たちの表情も真剣だ。修了生を日本企業に送り出す際には、「幹部がプロジェクトリーダーとして迎え入れること」を求める。平社員だとせつなかの「逸材」も「朱に交われは……」に終わる。GMCは、育てあげた人材の質に、絶対の自信を持っている。

ただ、GMCでの教育は始まったばかり。本格的に修了生が企業に入ったのも今年からだ。日中両国のためにも、自信と実力が一致してほしい。

経済ニュースを「ひと」「組織」「思想」に焦点をあてて読み解く日替わり特集です。ご意見や読みたいテーマをkeizai@asahi.comにお寄せ下さい。

たない多くの日本企業にとって、日本人の経営者が選り、鍛えあげたGMC修了生は好ましく見えるようだ。

配電盤メーカーの河村が選り、鍛えあげたGMC修了生は好ましく見えるようだ。中国での人材の確保に悩まされた。ここ数年は日本への中国人留学生を採ってきたが、今年4人のGMC修了生を採用する。みずから面接に臨んだ河村幸俊社長は「いずれも上昇志向が強くハズレのない人材。甲乙つけがたく、予定より多く採用した」と話す。

実行力も試す。杉山氏自身も毎月10日間程度は中国に入る。講義期間は半年。これまで約1500人が受講したが多くは脱落し、修了できたのは45人。このうち44人が日本企業に採用されている。今年7月からは「第5期生」への講義が始まった。今では武漢だけでなく、西安、広州、北京でも講義が開かれている。

GMCで学ぶ学生からは費用を徴収しないが、人材を送り込んだ日本企業からは500万~1千万円の紹介料を受け取る。中国の水準からみれば破格の手数料だが、「日本の優秀な人材の件費と比較すべきだ」というのがGMC側の考えだ。